

直轄改良國道標準設計に就て (一)

和田 庄 藏

は し が き

本記事は、昭和6年4月失業救済の目的を以て、直轄起工以來現在に至る、管内道路標準設計(新京濱國道を除く)の代表的ものを集録せるものなり。

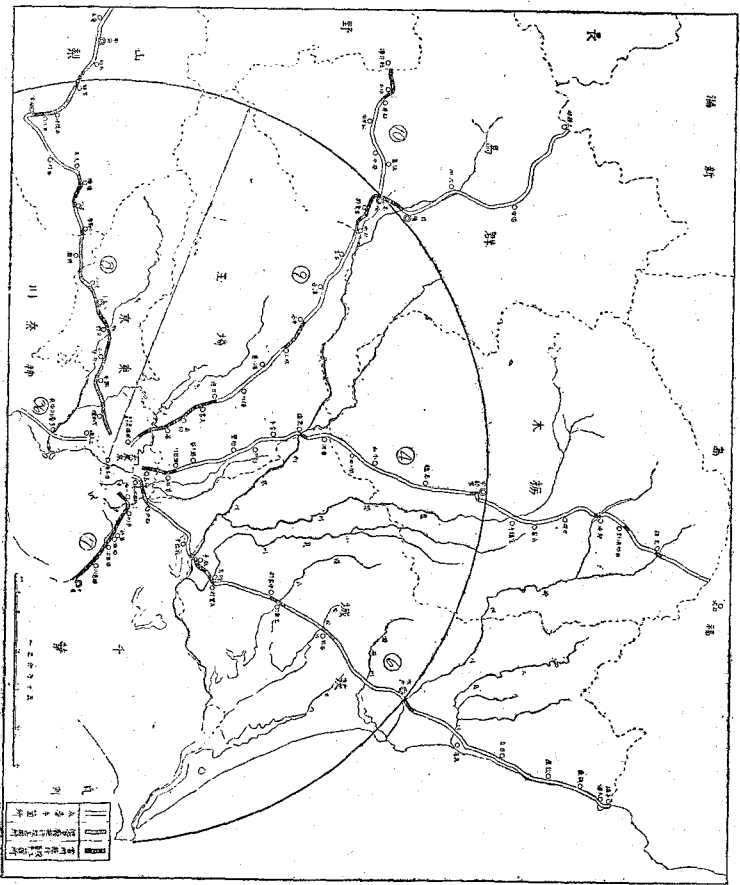
設 計 説 明

1. 6號國道

6號國道は、東京市淺草區言問橋西詰に於て4號國道より分岐し、葛飾區新宿、金町、を経て松戸、取手、土浦、水戸、助川、日立を通過し、宮城県岩沼町に於て再び4號國道に合する陸前濱街道にして、軍事上産業及交通聯絡上樞要なる路線なり。

圖道國內管所張出木土京東省務内

1. 東京市葛飾區至青戸町三丁目
 本區四ツ木町間
 昭和9年度事業
 2. 東京市葛飾區至青戸町三丁目
 本區四ツ木町間
 昭和7.8年度事業
- 本區域内は、幅員概ね5.5米にして
 屈曲亦甚しく一般交通上危険尠か
 らざるにより、都市計畫決定線に依
 り新設せるものなり、一般に地盤低
 濕の爲め、平均10~12米の高に盛
 土し、幅員は都市計畫毎路幅員に據
 り之を25米とし中央16.6米を車道
 に其兩側各4.2米を歩道とし車道中
 央5.8米を瀝青乳劑「マカダム」鋪
 裝とし、兩側各4.8米を二層式「コ
 ソクリート」鋪裝とす、歩道は全町
 地内は全幅を「コンクリート」平板



舗装とし、新宿町より青戸町地内に至る間を中央約1米に「コソクリート」平板を張詰め其兩側に砂利敷を施工す、青戸町より本田四ツ木町地内に至る間の歩道舗装は之を他日に譲れり。

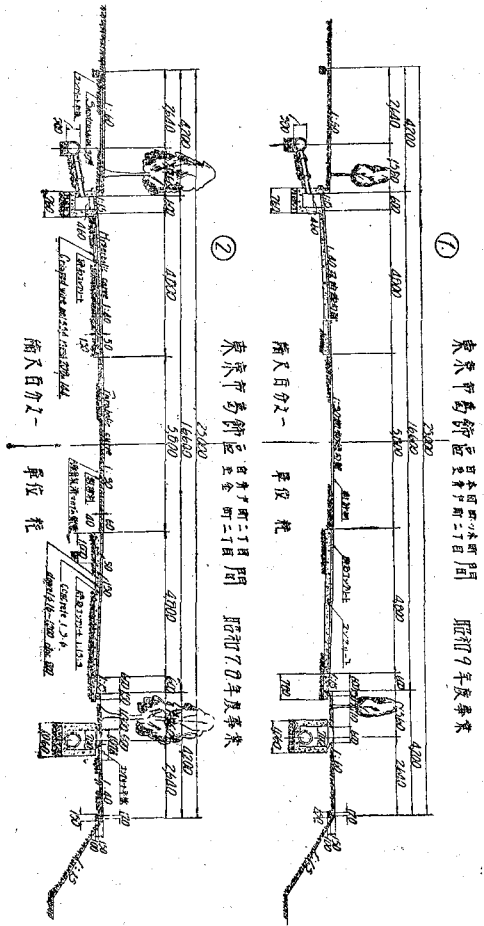
3.4 茨城縣北相馬郡取手町 昭和9年度事業

本區域内は、屈曲多く且つ幅員狭少なる砂利道なるを以て、之を幅員7.5米に擴張し舗装を施工す、舗装は二層式「コソクリート」を以て、街路區域は全幅を其他は中央6米を舗装す。

5. 茨城縣新治郡土浦町 昭和7.8年度事業

本區域内は、舊城下町にして徳川幕府時代に於て敵襲に備ふる爲め殊更街路に急角度の屈折を設けたりと傳へらるるもの數ヶ所及急坂路あり交通の障碍頗る大なるものあるを以て是等の缺點を除去する爲め人家稠密の

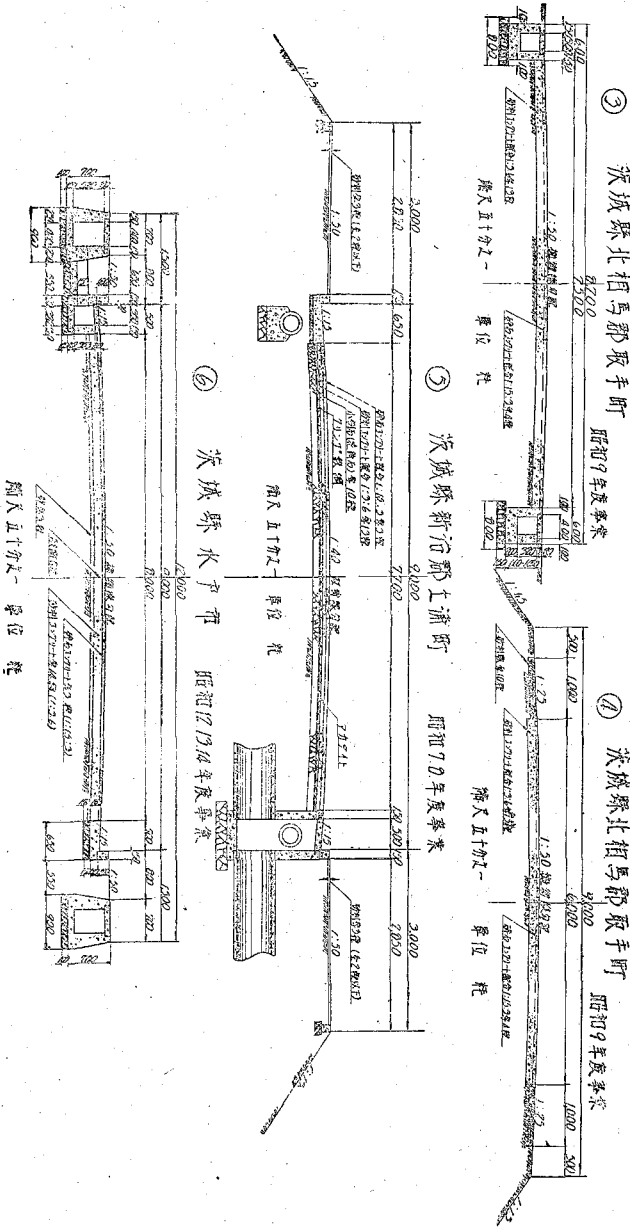
大荒國道皇皇平間標準横断面図



部分を避け現國道の西方に新路線を設定せるものなり、幅員15米にして中央9米を車道に、兩側各3米を歩道とす、鋪裝は車道に二層式「コンクリート」鋪裝を行ひ、歩道は砂利敷とす。

6. 茨城県水戸市 昭和12.13.14.年度事業(施工中)

本区域内は、主として幅員7米内外の砂利道にして、屈曲著しく勾配亦急なるに加へ、常盤線との平面交叉あり、交通



断面五十分之一 単位 米

七號國道 皇牛農産中間標準横断面図

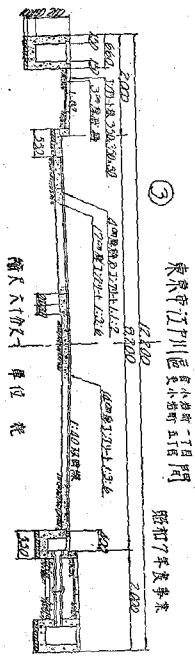
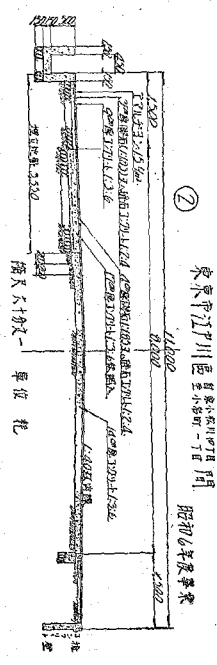
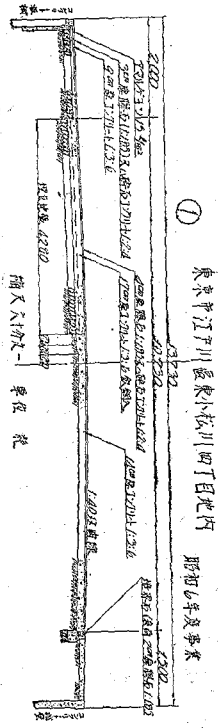
の圍情を阻害すること甚しき状態にあるを以て、現國道の南方に新路線を設定せるものなり、幅員は、街路區域は、12米にして中央9米を車道に、其兩側各1.5米を歩道とし、斜外を有效9米とせり、鋪裝は、街路區域の車道及び斜外を、幅9米に二層式「コンクリート」鋪裝を施工す。

2. 7號國道

7號國道は、東京市より市川市、船橋市を経て千葉市に至る路線にして、縣道により房總地方に通じ、又市川市より松戸町に至る縣道によりて6號國道と連絡するを以て、一般交通及物資輸送上重要路線なり。

1.2. 東京市江戸川区皇牛農産中間 昭和6年度事業

本區域内は、線形概ね良好なれども、幅員8米



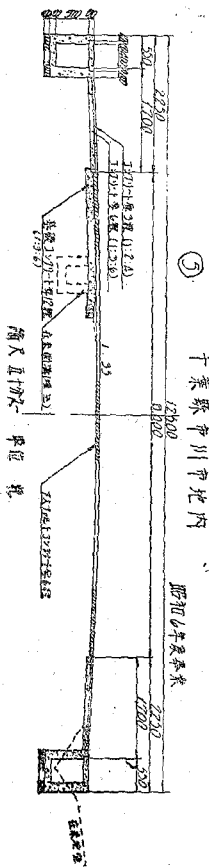
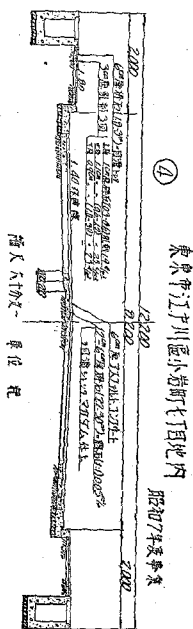
内外の砂利道にして近時激増せる自動車交通の爲め路面の損傷著しく漸次維持困難となれり、而して道路路両側には幅1.0~1.8米の水路あるを以て、之を埋立て、幅員を擴張し路肩に「コンクリート」擁壁板柵等を施し舗装を施工す、幅員は11.00~13.73米内中央8.00~10.73米を車道に宛て其兩側1.5~2.0米を歩道とす、舗装は車道全幅を凡て二層式「コンクリート」を以て、歩道は二層式「コンクリート」又は「コンクリート」基礎に瀝青乳劑を以て表面処理を行ふ。

3. 4. 東京市江戸川区皇小岩町一丁目 昭和7年度事業

本區域内は、線形概して良好なれども、幅員8米内外の砂利道なるため、幅員を擴張し舗装を施工す、幅員は12.2米にして、中央8.2米を車道に宛て、兩側各2.0米を歩道とす、舗装は車道を二層式「コンクリート」又は「アスファルトコンクリート」とし、歩道は大部分「コンクリート」平板張にして、一部に「コンクリート」又は瀝青乳劑表面処理を行ふ。

5. 9. 千葉縣千葉市笠戸 昭和6~13年度事業

本區間は、概ね平坦にして線形良好なれども、幅員狹隘且砂利道なるを以て路面の損傷著しく、殊に最近高速度交通頻繁の爲め維持漸次困難となれるを以て幅員の擴



張及路面の舗装を施工す、改良工事に於ては、船橋市、幕張町、検見川町地内は甚敷屈曲し且人家楡比せるが故に之を避け、海岸寄に新路線を撰定し附替を行ひ、其他は現道を利用し、幅員を擴張すると共に路面舗装を施工す、幅員は、標準總幅を 12.5 米

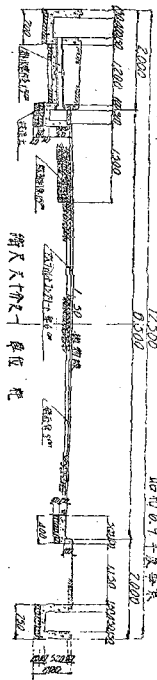
内車道 8~9 米とし其兩側を歩道に宛てたり、而して沿線に於ける商店街又は其他の家屋の状況により歩車道を高低分離せり、舗装は、擴張區域の車道には主として「アスファルトコンクリート」を採用し、新設部分には二層式「コンクリート」舗装を行ふ、歩道は一部分に「コンクリート」及び瀝青乳剤表面處理を行ひたれども、他は土砂を充分搗固めたる儘なり、舟津田沼町~幕張町間及び検見川町~千葉市登戸間の海岸線に接近せる箇所には防波乗用の法固擁壁を築造せり。

3. 4 號 國 道

4號國道は、東京市より埼玉縣北足立郡谷塚村、越ヶ谷町、栗橋町を経て北進し、栃木縣宇都宮市、黒磯町に至り、夫れより奥羽東部を縱走して、北海道釧路所在地札幌市に至る樞要幹線なり。

1. 東京市足立區 自千生八千代町間 昭和 6.7 年度事業

東京市内千住新橋迄の路線は、帝都復興事業其他により既に改良せられたるも、夫れ以北は舊態の儘にして、本區間は一一般幅員約 7 米 (最小 6 米) に過ぎず、交通上の障礙物からざるを以て、現在國道に略並行せる都市計畫線を國道に變更し、改良工事を施工せり、幅員 25 米、車道は中央 16.6 米を二層式「コンクリート」舗装とし、地盤軟弱なる箇所には鐵



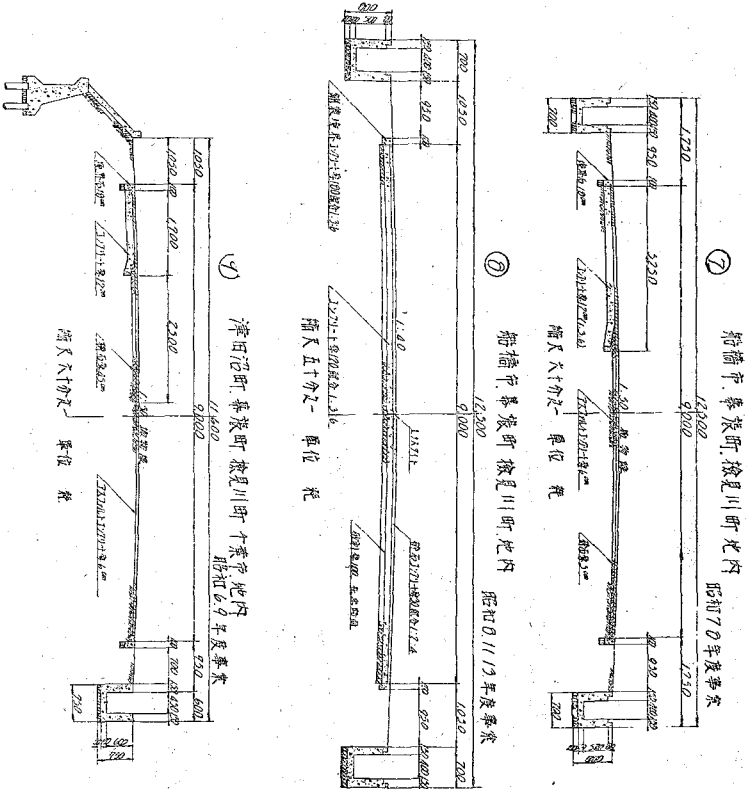
②

千葉県中川平船橋市津田町 島根町 茨城県山根町地内
昭和 6.7 年度事業

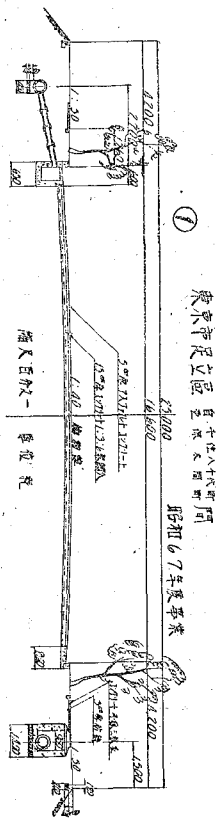
網を挿入せり、歩道は兩側4.2米とし、中央1米に「コンクリート」平版3枚通を並列したる外凡て砂利敷とせり。

2~13 埼玉縣北足立郡
自草加町間 埼玉縣北葛飾郡
至越ヶ谷町 埼玉縣北葛飾郡
自高野村間 昭和8.10~14年
至幸手町 昭和中)
度事業(施工中)

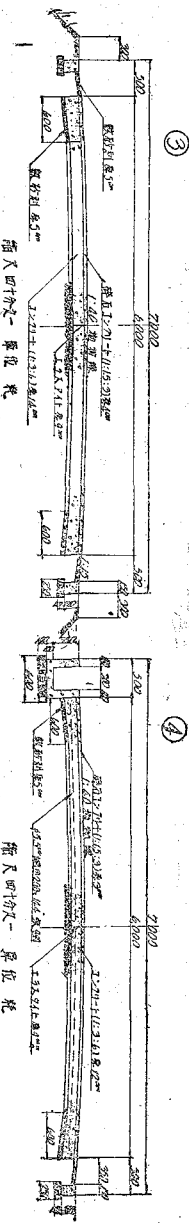
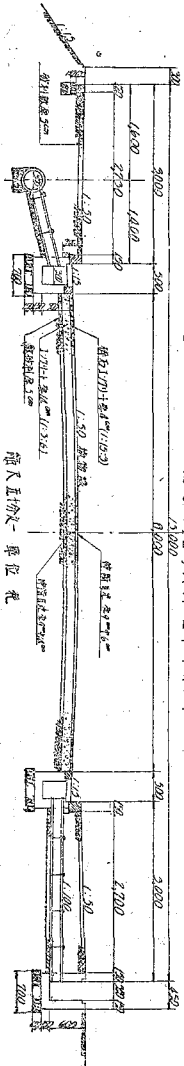
本區間は、線形概して良好なれども、草加町地内人家連擔部は、嘗て埼玉縣に於て簡易舗装施工済なるも、幅員僅に7米に過ぎず、爲めに運輸交通上不便且危險なるを以て、現國道に並行せる町村道を國道に改築し、新田村及蒲生村地内は幅員6米内外の簡易舗装道に



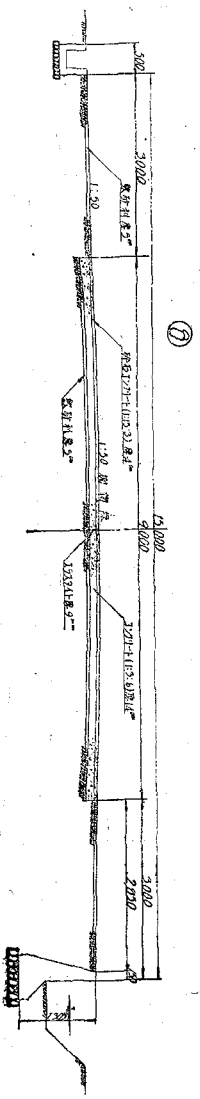
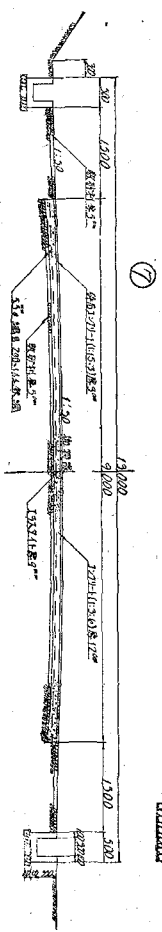
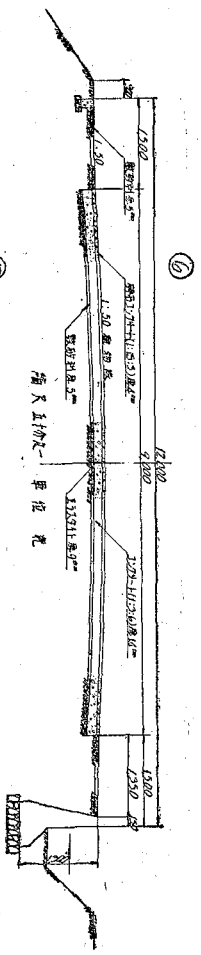
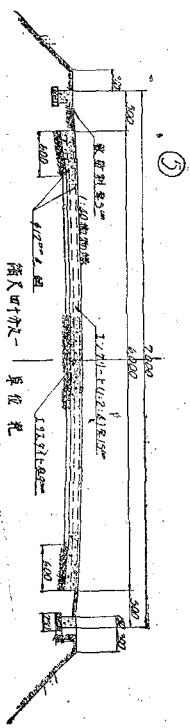
四號國道 皇學寮門標準横断面図



して所々破損し殊に蒲生村地内の大部分は道路低濕雨側に用悪水路を隔てて水田を有し、自動車其他一般交通上危険甚からざるを以て附替を行ひ、越ヶ谷町地内は人家楨比せるにより之を避け東方に現國道に並行せる路線を撰定せり、幅員は、



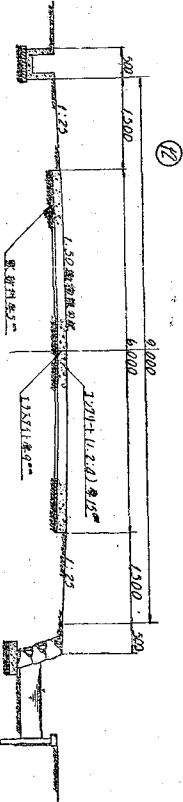
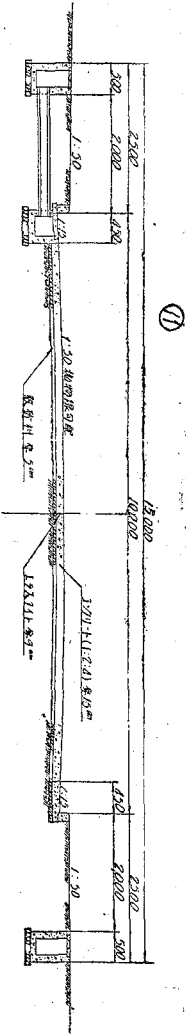
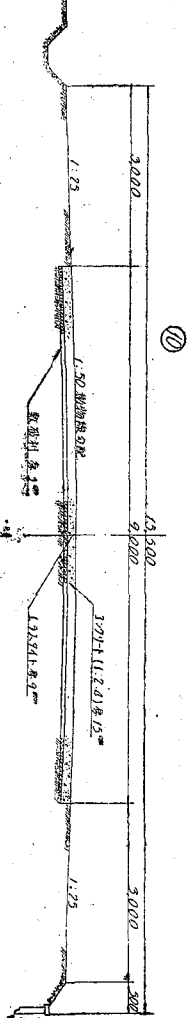
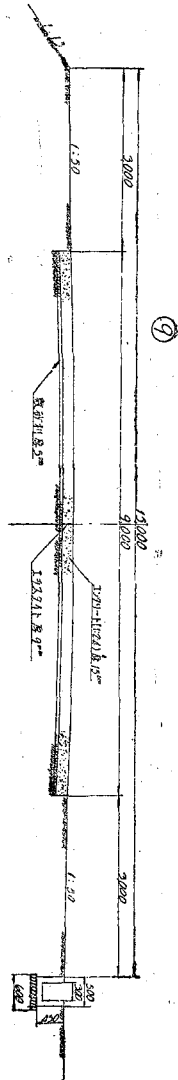
草加町～新田村間の後道幅員6米を除き、他は12～15米にして内9米を車道とし、其兩側を歩道とす、街路區域内は特に歩道を高低分離せるも他は之を區分せず、鋪裝は、車道を二層式又は一層式「コンクリート」鋪裝とし歩道は砂利敷或は土砂を充



分擔固めたる儘
とす、而して地
盤軟弱なる箇所
には特に鐵網を
挿入す。

14~17 板木縣
自河内郡 明治村間
至宇都宮市 西原町間
昭和 12. 14 年度事
業 (施工中)

本區間は、幅
員 7~9 米の砂
利道にして、線
形概ね良好なれ
ども、近時著し
く發達せる高速
度車輛の交通に

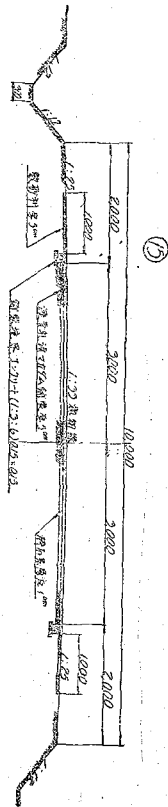
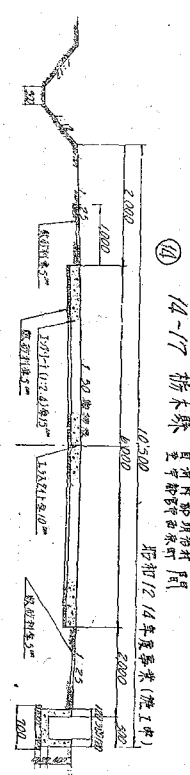
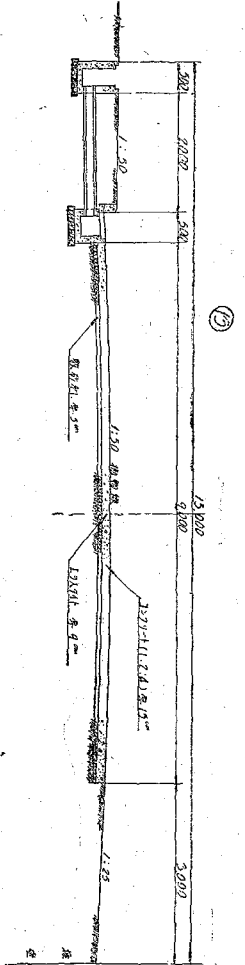


對し、漸次路面維持困難となれるを以て、幅員を擴張し舗装を施工す、幅員は

總幅10米内中央6米を車道に其兩側を歩道とす、舗装は、車道を二層式又は一層式「コンクリート」或は瀝青乳劑「マカダム」舗装とし、歩道は主として砂利敷とす。

18~20 栃木縣宇都宮市至上河原町間
昭和6、7年度事業

本區間の内、西原町より新石町に至る區域は、幅員狹隘にして店舗縮比せるが故に、宇都宮市計畫路線により新設し、新石町より上河原町に至る區域は宇都宮市の要衝に當れるを以て栃木縣に於て警て幅員の擴張をなせしも砂利道なるにより維持困難なるため舗装を施工す、幅員



は、西原町より新石町に至る間は18.及び22米の2種にして、車道は14.6米及び12米とし、歩道は3.7米及び3.0米とす、新石町より上河原町に至る間は、總幅18.182米にして中央10.91米を車道に兩側各3.636米を歩道とす、舗装は、車道を二層式「コンクリート」歩道を平板張とす。

21. 栃木縣宇都宮市室敷勢町間

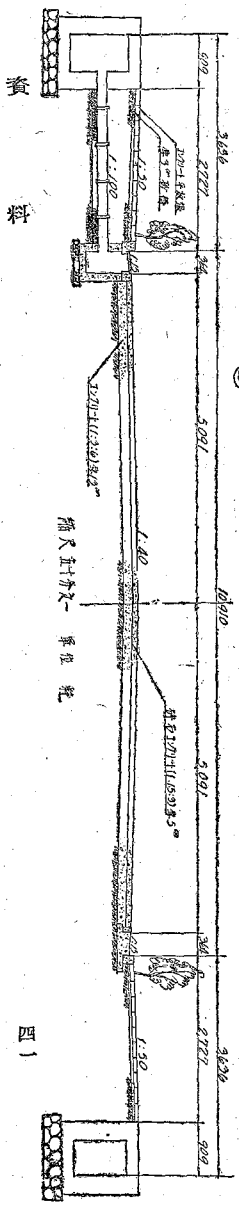
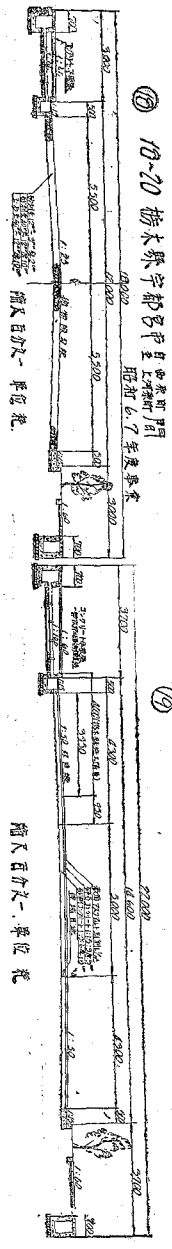
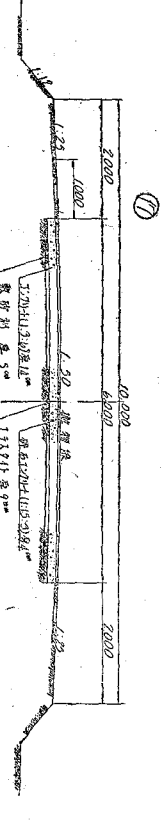
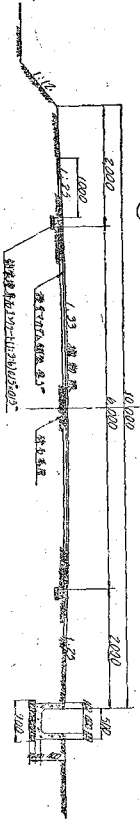


図1

昭和13年

度事業

本區間の

現道は、屈

曲甚敷且つ

幅員狹隘にして兩側に人家楯比し居るを以て、宇都宮

市都市計畫路線に據り新設す、幅員18米内車道12米歩

道各3米とす、車道は一層式「コンクリート」歩道に

「コンクリート」平板張舗装を行ふ。

22. 栃木縣那須郡 自持野村間 昭和10年度事業

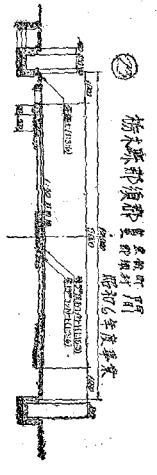
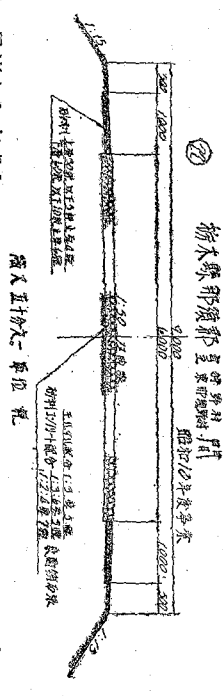
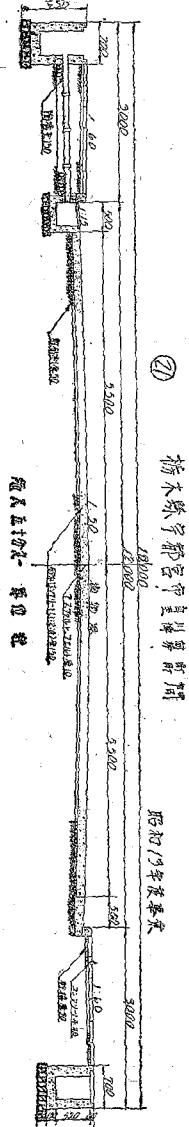
本地點に於ける降雪は相當なるものあるを以て、車馬の足掛りを考慮し

橋梁前後取付道路に於ける縱斷勾配 1/80 の箇所に施工す。

23. 栃木縣那須郡 自黑磯町間 昭和6年度事業

本舗装は、橋梁架換に伴ふ取付道路に施工せるものにして、幅員8米を

二層式「コンクリート」舗装をなす。



橋梁架換の断面